特集 高校の英語の授業を知ろう

高等学校の授業への橋渡しとなる中学校での授業改善
―コミュニケーション能力の基礎から活用へ―

後藤喜朗
（岐阜県岐阜市立東長良中学校）

1．はじめに

2009年3月に高等学校学習指導要領の改訂が公示され，「外国語科」では，「コミュニケーション」という名称がより多く使用されるようなった。また，「授業を実際のコミュニケーションの場面とするため，授業は英語で行うことを基本とする」と明示されたことも改訂の方向性に沿ったものである。

こうした改訂の趣旨を前提に，高等学校を見すえた中学校での授業改善のポイントについて述べる。

2．All Englishの授業とClassroom Englishの充実

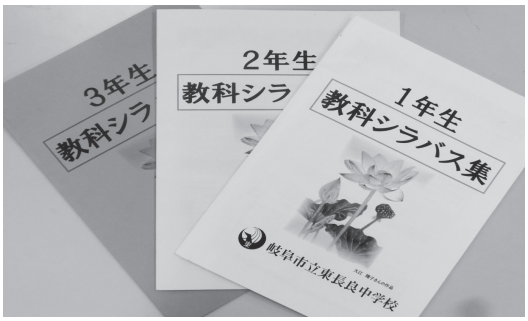
高等学校での「授業は英語で行うことが基本」を視野に入れ，教師自身がAll Englishでの授業を目指した。教師は，学習者にとって一番身近なモデルである。そこで，教師自身が英語力を磨くことに日々精進している。通勤の車の中で英会話を聞いたり，英検に挑戦したりするなど，英語教師としての専門性を鍛えることが大切であると考える。

また，本校では「教科シラバス集」を作成し，授業中に使えるClassroom Englishを生徒に示した。この「教科シラバス集」には，各教科の学び方と年間の学習内容の見通し，目指す発言形式や反応の仕方などを掲載している。

生徒は，この「教科シラバス集」を，学習活動中に机上に準備したり，教科のノートに貼ったりして，自分が発言する際に活用できるようにしている。また，学習活動前には教科係が「教科シラバス集」をもとに話し方・聞き方を確認している。

なお，生徒から「家庭学習の仕方が知りたい」という要望が出されたため，「予習・復習の方法」を新たに「教科シラバス集」に位置付けた。

教科シラバス集（岐阜市立東長良中学校編）



教科シラバス集 「英語ならではの話し方（例）」

- I have another idea. ・I add something to ~.
- Today I'll talk about ~.
- I'll say that in my words.
- I think so, too. ・I don't think so.
- I agree with ~. ・I disagree with ~.
- That sounds good / interesting / great.
- In my opinion ~. ・I see your point, but ~.
- I know what you mean, but ~.
- That may be true, but ~.
- I don't understand what he said but ~.

このように，「教科シラバス集」を活用し，自ら学んだ体験が，高等学校進学後の「自学」につながるととらえる。

3．「帯活動」における「聞くこと」「話すこと」の位置付け

高等学校で「コミュニケーション」がより重視されるようになったことを受け，本校では，授業の最初の約10分間を「帯活動」とし，「聞くこと」「話すこと」を中心としたコミュニケーションを図る活動を位置付けている。具体的には，ペアで昨日の出来事について対話をしたり，1分間スピーチに対するQ&A活動を位置付けたりしている。本校では，年間を通して「帯活動」に取り組むことで，中学校で

の英語科の学習における基礎的・基本的な知識・技能が確実に定着することを目指している。

基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける「帯活動」の例

○ One Minute Talk
（1分間ペアで対話をする活動）
・トピックは，“What is your favorite food?” “How was your school trip?” など。各単元の題材や言語材料に関するものを扱う。
○ Show and Tell
（具体物を示しながら，スピーチを行う活動）
・スピーチの内容に関して Q&A 活動を行う。
・トピックは，自己紹介，他者紹介，家族紹介，夏休みの思い出，私の夢などを扱う。

4.「伝え合う活動」と「理解・練習する活動」のバランス

中学校でも高等学校でも外国語科における授業改善のポイントは，言語活動の充実である。そのための方途の1つが，中学校学習指導要領の「言語活動の取扱い」に，『実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに，言語材料について理解したり練習したりする活動を行うようにすること。』と述べられている。

高等学校への橋渡しのために中学校の英語科教員には，「伝え合う活動」と「理解・練習する活動」のバランスを考慮し，中学校3年間を通して「確実に」かつ「効果的に」実践することが求められる。例えば，mechanical drill や既習事項の meaningful drill を通して言語活動の定着を目指したり，単元の終末の活動のあとに，別の話題でコミュニケーションを図る活動に取り組んだりすることが大切である。

このように，「伝え合う活動」と「理解・練習する活動」を効果的に実施し，「正確さ」と「適切さ」の両面を鍛えることが，高等学校へのスムーズな接続につながると考える。

5. 中高での授業交流及び授業研究会での意見交流

本校では，隣接する公立高等学校と日常的な交流を行っている。特に，研究授業の際には学習指導案を交換し合い，授業を見合い，研究会で意見を述べ合うという取組を行ってきた。

また，高等学校1年生の授業に中学校教員が，中学校3年生の授業に高等学校教員がゲストティーチャーとして参加をする取組も行っている。特に，中学校教員は，高等学校教員の語彙の豊富さ，表現技能の高さに大きな刺激を受けたようであった。

このように，中高での指導計画や学習指導案の交流だけに止まらず，実際の授業を見合うことを通して，各々の実態をより的確に把握できるようになった。そのことが日常の授業で使用する語彙や言語材料の見直し，言語活動の改善につながっている。

さらに，高等学校に入学すると，「英語表現Ⅰ・Ⅱ」という科目が始まる。そこで，中学校3年生の後半にディベートやディスカッションの活動を位置付け，この「英語表現Ⅰ・Ⅱ」への導入となるように指導計画の改善を図った。

6. 終わりに～百聞は一見にしかず～

こうした取組を経て，中学校での授業改善には，下記の3つのファクターが必要であると言える。

○高等学校での指導目標，指導内容，指導方法の把握
○高等学校の生徒の実態把握
○中高の教員間の協力体制づくり

今後は，中高の連携を基盤とし，校区の小学校とも一層の連携を図りながら，効果的な小中高の連携の在り方を究明したい。

なお，本校は，岐阜県の研修校として，毎年，授業を公開している。ぜひ，高等学校を見すえた具体的な授業実践を参観していただき，ご指導・ご示唆を賜れば幸いである。

公開研究会のご案内

岐阜市立東長良中学校「わが校報告会」
日程：平成25年11月15日（金）
場所：岐阜市立東長良中学校

電話：058-294-1782 ／ FAX：058-294-1784
http://cms.gifu-gif.ed.jp/h-nagara-j/
E-Mail：gichu21@e-nagara-j.gifu-gif.ed.jp